

成人期に日本語を獲得したバイリンガルの失語症者のプロソディ障害に対する考察

総合リハビリテーションセンター みどり病院
リハビリテーション科¹⁾
同神経内科²⁾
小林航¹⁾, 堂井真理¹⁾, 工藤由理¹⁾, 江口郁代²⁾

【背景】

はじめにバイリンガルとは、学童期以上において、国内外問わず、外国語を不自由なく使用できる状態になった人¹⁾とする。我が国の失語症研究のうち、バイリンガルの失語症研究については、立地、歴史的背景、教育等の条件より、欧米に比し研究数は少ない。しかしながら、現在の国際情勢を見ると、バイリンガルの失語症は増加していると思われる。

今回、成人期に日本語を獲得し、病後、日本語や認知機能に障害が認められた韓国語を母国語とする1症例を経験した。そのプロソディに関して考察と合わせて報告する。

【方法】

症例の日本語における言語症状について WAB 失語症検査、TOKEN TEST を行い発症 60 病日、125 病日を比較検討した。母国語に関しては、精査困難であった。そのためバイリンガル（韓国語-日本語）である娘に、病前、病後の両言語の聴覚的印象を尋ね、比較した。症例情報は以下のとおりである。

【症例】61 歳、右利き女性。教育歴 16 年。【主訴】「日本語が赤ちゃんみたい」。【現病歴】クモ膜下出血、右側頭葉脳内出血発症し意識障害を伴った。数日後、左被殻の脳梗塞発症し右片麻痺および日本語会話不能となった。発症 2 ヶ月で当院リハ入院。【神経学的所見】意識覚醒、失語症、右片麻痺。

【頭部 MRI 所見】右側頭極に脳内出血、加えて左被殻に脳梗塞を認めた。【神経心理学的所見】注意障害、近時記憶障害、遂行機能障害、失語症、脱抑制、固執、情動障害を認め、失行、失認は認めなかった。

【結果】

【病前の日本語機能】家族の情報より、プロソディ面を含め、高度に習熟していたと推測された。【言語初回評価～発症 60 病日～】韓国語は、家族の情報より障害なし。日本語は自発話流暢。喚語困難、迂言、語性錯語、韓国語混入を認め、外国人様のプロソディ。これは、単語レベルは長音、拗音、撥音を含む単語にほぼ局限しアクセント、ピッチの移動が目立った。文レベルで顕著、単語レベルの症状に加え、文末の抑揚が日本語と異なった。聴理解、呼称、復唱、読みは軽～中等度低下。書字は仮名・漢字想起低下、ハングル混入を認めた。【言語最終評価～発症 125 病日～】喚語困難、迂言、語性錯語、韓国語混入は減少。自発話、呼称、聴理解、復唱、

読みは軽度低下。書字は仮名想起が改善。一方で外国人様のプロソディは顕著に残存した。

【考察】

日本語に失語症が認められ、自発話、呼称、聴理解、復唱、読み、書字は改善を示した。一方、プロソディの障害は残存する形となった。本例のプロソディについて以下の考察をした。

本例のプロソディは長音、拗音、撥音を含んだ場合にアクセント、ピッチの移動が目立ち、ほぼ一貫している、文末でイントネーションが日本語と異なる、復唱では比較的改善されるが、自発話では顕著といった特徴が認められた。

本例は発語失行、口部顔面失行を伴っておらず、これらの影響でプロソディの障害が生じている可能性は低い。また、Foreign accent syndrome は、母国語として正常なアクセント、イントネーションをつけることができないため、あたかも外国語を話しているかのようなプロソディを呈する後天的症状²⁾、とされ、定義よりその可能性は除外される。症例は病後、日本語を話す場合は、韓国語を想起してから日本語へ変換していると話していた。日本語に失語症があり、かつ韓国語からの変換を経て表出されるため、言語表出にあたり負荷が大きく、プロソディの調節が困難であったと考えられる。Monrad - Krohn はプロソディを母国語や方言に内在する固有プロソディ、意図的に制御する知的プロソディ、感情が表れる感情的プロソディの 3 側面に区別している^{3) 4)}。知的プロソディが障害を受け、障害されていない母国語のプロソディの影響を受けたとも考えられる。

以上まとめて、本例のプロソディの障害は先に述べた日本語の失語症による負荷の影響、脱抑制、注意障害により意図的に自発話の調節が困難となり、知的プロソディが障害され、かつ母国語のプロソディの影響を受けた可能性等、複合的な要素でプロソディの障害が生じたと考えられた。

【結論】

バイリンガルの失語症の報告は少なく、本例の症状についても断定することは非常に困難であった。今後も症例の蓄積が必要であると思われる。

【文献】

- 1) 永瀨正昭・他：中国残留孤児の失語症。失語症研究 10：183-190, 1990
- 2) Blumstein, S. E., Alexander, M. P., Ryalls, J. H., et al. : On the nature of the foreign accent syndrome ; case study. Brain Lang, 31 : 215-244, 1987.
- 3) Monrad-Krohn, G. H. : Dysprosody or altered "melody of language". Brain, 70, 405-415, 1947.
- 4) Monrad-Krohn: The prosodic quality of speech and its disorder. Acta. Psychiatr. Neurol. Scand., 22, 255-269, 1947.